もうすぐ紅葉
8号
2000 Oct.

NOPPO FUN
Monthly News

発行所
Noppo
編集・監修
のっぽ公報班

サンゴの危機

サンゴ特集の第二回目です。サンゴが地球に与える影響やサンゴの現状を特集します。

動物の住み場所

サンゴ礁から造礁サンゴが姿を消すと、サンゴを食べにくる動物や住み込んでいる動物達が姿を消す。生きた造礁サンゴは、多様で複雑な大量の住み場所を基盤の上に立体的につくり上げているのである。

サンゴの存在があってはじめて、サンゴを食べる動物、サンゴの枝のすきまをすみかとして利用する動物、サンゴの骨の中に穴を開けて住み込む動物、あるいはサンゴの骨の中に埋まって安全に暮らす動物などが、サンゴ礁で暮らしていけるのである。サンゴ礁が生物の豊富な場所、遺伝子資源の宝庫となれる理由の一つがそこにあります。

サンゴの白化現象

白化現象とは?

九七年から九八年にかけてサンゴが白くなってしまう「白化現象」が起こりました。

サンゴはごく表面の部分だけが生きており、たとえば枝状サンゴを折れば、なかからは白い石灰分の骨格があらわれます。造礁サンゴの表面には無数のサンゴ（直径一ミリ程度の石質のイソギンチャクがビッシリ付いているとイメージしてください）と、その体内に棲み着くこれまた無数の褐虫藻がいるわけですが、この褐虫藻がサンゴから抜け出すと、サンゴ本来の色が現れます。これが白化とよばれる現象です。サンゴだけでなく、褐虫藻の宿主となるイソギンチャクや貝類の一部分も白化していました。白化が長引き、褐虫藻が戻らなければ、栄養をもらって生きてきたサンゴは死に、すみかを失った魚も去り、光あふれるサンゴ礁はガレキの海に変わります。

白化現象が起きる理由

サンゴの生息に適する海水温は二五〜二八度くらいといわれますが、海水温が低すぎたり高すぎたりすると褐虫藻は抜け出します

雨の後に陸から淡水や濁水が大量に流れ込んでも同様です。

白化現象後のサンゴ

七月経産部の一日に新聞記事の一部が述べられているが、ことしの九九年二〇年の虫褐藻の戻りが、後述がないので、また次報告します。

ケンのドイツリポート Vol.1

記念すべきケンのドイツリポート第一回目は、ドイツのビン・ペットボトルのリサイクルについてちょっと書きます。

ドイツではジュースとかビールとかビンのものがいっぱいあります。それにはPfand（プファンド）といって保証金がついてます。そんで買うときに保証金の分も払って、空のビンを持って行くと保証金がかえってくるという感じです。ビンだけじゃなく、ペットボトルにもついてます。ペットボトルも数回使うということで日本の物よりも硬いプラスチックを使っています。残念ながら500mlのペットボトルには保証金はついてませんが・・・。だからドイツ人はビールをビンでケースで買っていってまたケースごと返すのが一般的みたいです。ちなみにビール一本（五〇〇ml）は種類によって値段は違いますが一マルク〜二マルクぐらいです。日本円にするとなんと五〇円〜一〇〇円です！あと例えばビールフェスティバルとか外でビールとかを樽から売ってるとき、日本のように紙コップに入れるのではなくガラスあるいはプラスチックのコップで売っています。それにも保証金がついています。例えば五マルクのビールで保証金が五マルクのときは買うときに一〇マルク払って飲み終わってコップを返せば五マルク戻ってくるって感じです。（ドイツ特派員ケン）

編集後記

今号は文字ばっかりになっちゃってすみません。写真とか入れるスペースなくなっちゃって…

今号から「ケンのドイツリポート」が始まりました。ドイツでパン修業を頑張っているケンちゃんが環境先進国ドイツのリサイクルなどの現状をリポートしてくれます。お楽しみに。

サンゴ特集第二回目はどうでした？来号はサンゴ特集の完結編「サンゴの危機vol.2」と「サンゴの将来」です。こちらもおたのしみに。

PRIVATE

PRIVATE

お知らせ：「のっぽ」のホームページアドレス→www.noppo.co.jp です。